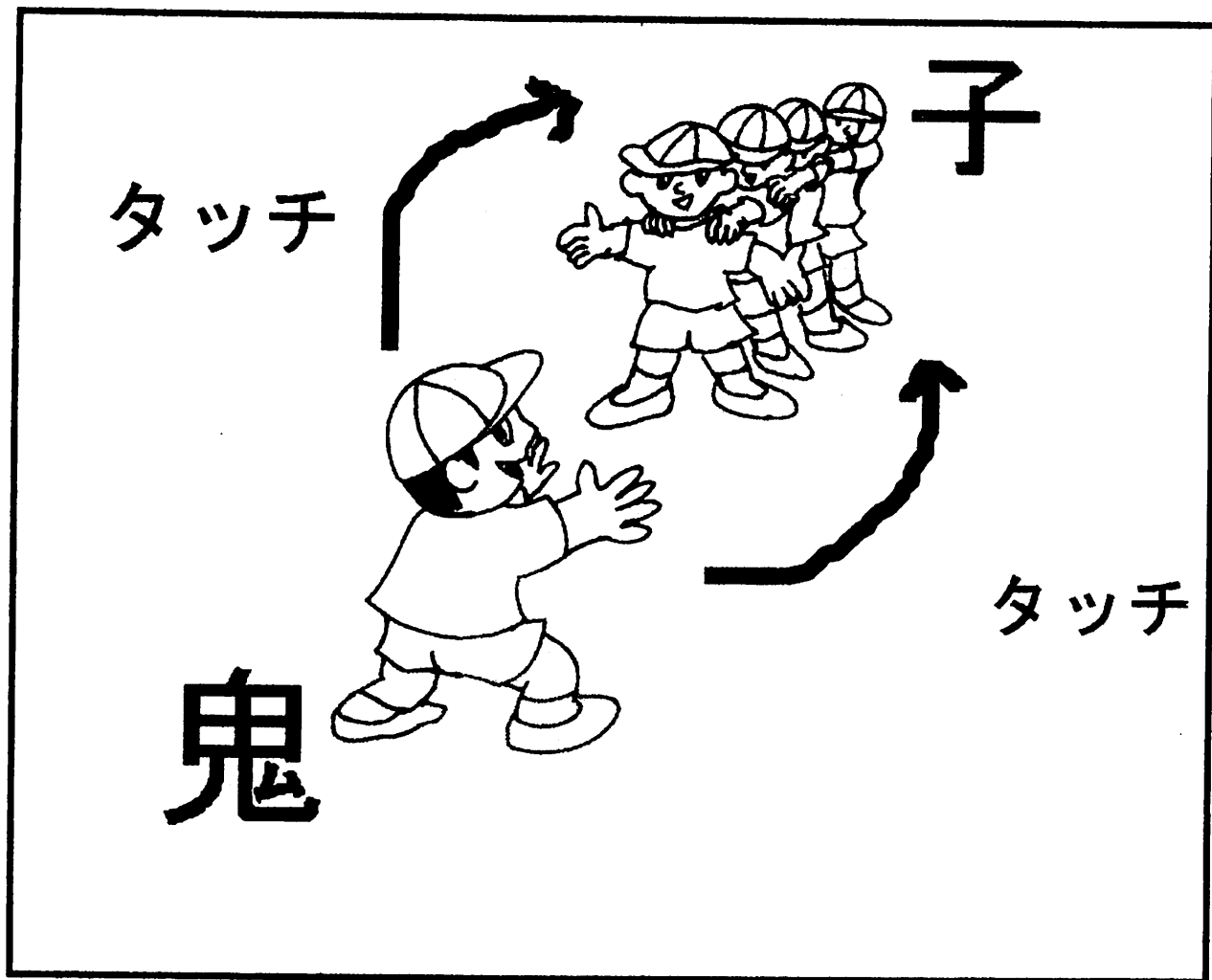


B3-子とり鬼



<やり方>

- ・ 5～6人を1つのチームとし、1人を鬼にします。残りの人は、一列に整列します
- ・ 列の先頭を親、後ろを子とします
- ・ 列は、必ず前の人（肩）をつかみ、離れないようにします
- ・ 親は、自分の一番後ろの人が、鬼にタッチされないように、ガードしながら動きましょ
- ・ 30秒間、鬼にタッチされなければ勝ち、タッチされたら鬼の勝ちとなります
- ・ 時間内に列の手が離れたり切れたりすると、負けになります

B3-子とり鬼

- ・子に並ぶ人数が多いほど、捕まえるのは簡単
- ・少ないほど小回りがきき、難しいように感じる
- ・ディフェンスに必要な左右への横の動きの練習となる

<留意点>

- ・列の人数は、多いほどつかまりやすく、切れやすいので、実態にあわせて人数をかえる
- ・鬼は、フェイントを上手に工夫して、親のガードを振り切りタッチするよう指導する＝ボールゲームのオフェンスの意識づけ
- ・親は、鬼に回りこまれたり、振り切られたりしないように、しっかりと両手を広げてガードするように指導する＝ディフェンスの意識づけ
- ・時間も児童の実態にあわせて、変えていく
- ・全ての子どもが、親や鬼、子を経験するようにする
- ・親以外の列の子は、親の動きに同調して、列が切れないように素早く動くよう指導する＝ボールゲームでのサイドステップや、相手の動きにあわせた動きづくり